

運河完成後の倉庫群

小樽運河沿いに並んだ倉庫群は、小樽の最も象徴的な眺めのいくつかを形成しています。これら倉庫群は、1923 年に小樽運河が完成した後、埋め立て地に建てられたものです。当時、これら倉庫群は片側に小樽運河側開口部があり、荷物の揚げ降ろしに便利でした。

第一次世界大戦（1914 年–1918 年）中、小樽港は北海道からヨーロッパへの穀物輸出に使用され、小樽の倉庫業は急速に拡大しました。小樽運河の南端にあった旧浪華倉庫は、現存している小樽最大の倉庫のうちの 1 つです。この木骨石造り倉庫は 1925 年に建てられました。2022 年、この建物は 5 つの歴史的建造物から成る小樽芸術村の一部、西洋美術館として再利用されることになりました。

旧篠田倉庫（現在はレストラン）は、小樽運河沿いでは数少ない煉瓦造り建造物のうちの 1 つです。この倉庫は 1925 年に完成し、穀物や輸入品の保管に使用されていました。隣の澁澤倉庫も同年に建てられました。澁澤倉庫部（のちに澁澤株式会社と命名）は、この時すでに東京に数棟の倉庫を所有しており、1915 年に小樽に進出しました。運河沿いのさらに数棟の倉庫の壁には、「りうご（立鼓）」として知られる会社のロゴが記されています。

小樽の経済的衰退が見えた 1960 年代、1970 年代には、多くの倉庫がもぬけの殻となりました。しかし、小樽運河を守る会の努力により小樽運河とその周辺の歴史的エリアは、1980 年代、人気観光地として復活しました。倉庫群の多くは改修され、レストラン、小売店、美術館として再利用されることになりました。